

神理解：旧約聖書

前提：地理と歴史

- 古代オリエント世界におけるパレスチナの位置
- パレスチナ：コントラスト：山岳地帯と溪谷地帯 エルサレム（シオンの山 760m）、上りと下り、死海(-390m)、平野地帯と砂漠地帯。昼と夜の温度差、乾期と雨期、水、Wadi(Ps42,1)、風（東風、シロッコ、Jona4,8;Jes40,6-8;Jer4,11;Ps103,5-16）、荒れ野(Ex15,22-27;16,1-36;Hos2,14-23;Mt4,1-11 試練、神との出会いの場所)と「乳と蜜の流れる地」(Ex3,8;Dt31,20;Jos5,6;Jer11,5)
- イスラエルの歴史（族長時代＝半遊牧民（前15?～13世紀）、王国以前のアンフィクチオニー＝部族連合、初期王国時代（BC1000～922）、南北王国時代（BC922～721北、～587南）、捕囚時代（BC587～539）、捕囚以後（BC539～）、ヘレニズム時代（BC333～）、ローマ時代（BC64～））。

神理解に関する文献

- A. Alt, Der Gott der Vaeter (1929), in: ders., KS I, Muenchen 1953, 1-78
- M・ノート著、山我哲雄訳『モーセ五書伝承史』 日本基督教団出版局 1986
- M. ノート著、樋口進訳『イスラエル史』 日本基督教団出版局 1983
- G.フォン・ラート著、荒井章三訳『旧約聖書神学 I+II』(日本キリスト教団出版局) 1980-82
- G.フォン・ラート著、勝村弘也訳『イスラエルの知恵』(日本キリスト教団出版局)
- W.H.シュミット『歴史における旧約聖書の信仰』1985 新地書房
- R・ブルトマン『新約聖書神学』川端純四郎訳、(ブルトマン著作集3, 4, 5)新教出版社 1980
- R・ブルトマン『共観福音書伝承史』
- L.Goppelt, Theologie des Neuen Testaments, 1+2,

神理解：旧約聖書

前提：半遊牧民(Halbnomaden)

- 羊、やぎ、ロバ、テント：季節による放牧場所の移動 (Transhumanz, Weidewechsel 夏は農耕地帯へ、冬はステップ地帯へ)、旅人性(Dt26, 5b;Heb11,13)、羊飼いのイメージの比喩化=Ps23;Jer31,10;Jes40,11;Ez34,1-31;Joh10,1-18;vgl.20,16) →神の比喩：父と子、母と子、夫と妻、王と僕。
- オアシス(泉、井戸)(Gen16,7=21,15.19;26,17-22;24,10ff;29,2ff;Ex2,16ff)、命の源、救い、愛、出会いの場
- 氏族集団(clan, Sippe→Stamm=部族)、大家族制(3~4世代：Ex20,5;34,7)、「父の家」(Gen12, 1)、系図(トーレドート)、族長、長老、
- 血縁共同体の意識：corporate personality、ius talionis(目には目を：Ex21, 23ff;Lv24, 18ff;Dt19, 21、血の復讐：Num35, 9ff;Dt19;2Sam21)、町の門、裁判
- 農耕定着民化(Gen26, 12;33, 19など)、土地を与えるという神の約束にみられる願望(Gen12,7;28,13など)。
- Ethos:Gastfreundschaft Gen18, 3;19, 2;Ex2, 20f, Ri19, 16ff, Heb13, 2